



まちネット寄居通信「さあ 手をつなご!」はみなさんの支援力がエネルギー源

気候危機にアクション!

新型コロナウイルス感染は、新年を迎えても沈静化することなくさらに拡大は全国へと広がっています。深刻な状況が依然続く中で、まちネット寄居の総会の議案を書面決議のみとしました。書面議決を送ってくださった皆さんは、議案に全員賛成で、2021年度の活動がスタートしました。

今年度もさらなる感染不安やワクチンへの期待、不安、経済悪化の不安など複雑な社会情勢の中のスタートです。昨年に続き、人が集まっての活動は制限されることと思います。そんな中で今できることは?今感じていること、たくさんの不安や提案など何でもありで、会員の皆さんからの発信が必要です。日常の些細なことからスタートです。このコロナ不況の中、町の財政事情は?学校のタブレット化の状況は?国民健康保険や介護保険の値上がりは?などなど多くの疑問、不安を抱えているのではないのでしょうか?

また、毎年深刻になっている気候変動は、私たちの今の生活を脅かすだけでなく、将来の子どもたちへの持続可能な社会、自然を残せるのか、その岐路に来ていると思います。今できることを皆で真剣に取り組んでいきたいと思います。その一つが今回取り組んでいる、国のエネルギー基本計画へ意見書を議会から上げることに繋がります。生活クラブ寄居支部と一緒に陳情書を町議会へ要望書を町長へ提出します。



陳情書・要望主旨は以下の3点です。

1. 次期エネルギー基本計画では、IPCC 報告に倣い 2030年度の再生可能エネルギー電力目標を 40~60%、2050年度には 70~80%が供給されるようにしてください。
2. 大きなリスクを抱える原子力発電および石炭火力発電は段階的に縮小してください。
3. 脱炭素社会に向けて、再生可能エネルギーを推進する政策への転換を早急にすすめてください。

2011年、まちネット寄居は、「自然エネルギー推進のまち宣言」を求める要望書を提出しました。そして翌年の2012年寄居町は「自然エネルギー推進のまち宣言」を行いました。この前向きな宣言を掛け声だけに終わらせないためにも、真摯に取り組んでいくよう再度声を上げていきたいと思っています。





20年近く前に白熊=ホッキョクグマ可愛い〜と、それだけで観た「北極のナヌー」という映画があった。北極に住む子熊が厳しくも美しい自然の中で育っていくドキュメンタリードラマ。温暖化で溶けた小さな氷に乗って流されていく不安げな姿に、胸を締め付けられた覚えがある。

時は流れて、去年、寄居町の8月には35度以上が20日近くあり、39.2度もあった。日本各地から知らされる大規模な自然災害からは逃れられているとはいえ、気候変動の恐ろしさを実感した。可哀そうな白熊ちゃんに起きていたことが自分にも起きていたのだね。そして今回の「エネルギー基本計画へのアクション」である。

「CO2を出さない再生可能エネルギーへの転換！待ったなし」

*「パリ協定」2016年に世界の平均気温上昇を1.5度に抑えることを目標とした。その為にCO2排出量が2030年までに45%削減され、2050年ころには正味ゼロにする必要がある。(「気候変動に関する政府間パネル」はICPP「1.5℃特別報告書」の概要 環境書2019年より)

*世界のCO2総排出量は335億トン。日本は10億トンで3.4%を占め第5位である。その排出量の41%がエネルギー転換から。「二酸化炭素排出量全体 環境省2018年より」

*エネルギー転換を2018年の電源構成(発電電源量)で見ると、原子力6%石炭・石油・天然ガス77%水力・太陽光・風力・地熱・バイオマス =再生可能エネルギー16.9%(令和元年度(2019年度)エネルギー需給実績を取りまとめた(確報)資源エネルギー庁2021年より)。2020年1-6月に23%に上昇という数字もあり、洋上発電、送電網の整備等で伸びしろはまだまだ、あるようである。「自然エネルギー財団2020年9月より」

*再生可能エネルギーを要望1に掲げた、まずは2030年に40~60%を！は、2050年に7,80%を再エネで！への重要な通過点ですね。

(KY)



2021年に入って突然の電話が入る。大分県佐伯市の40代の女性からである。なんと2014年にまちネット寄居が町議選立候補予定者に公開アンケート調査をした時の通信を見て電話をしたとのこと。自分の町でも同じことをやろうと思ったのだが、すごく難しいと行き詰ってしまいインターネットで検索したところ、ホームページの私たちの通信の記事が目にとまったという。

実際こんなところで繋がっていくとは思ってもよなかった。色々な話を聞いてみると、前回8町市の合併後選挙公報もない中選挙が行われたという。何も情報のない中どのように選択すればよいのかと同じ思いの人たちが、SNSで繋がっていったという。今回の選挙には間に合わないが、できるだけ早く選挙公報の発行を実現したいと活動している。



2021年4月11日投開票の佐伯氏の市長選、市議会議員同時選挙が行われた。即日開票されたが、目を疑ったのが、当初市のH.Pに掲載された内容だ。4人の立候補者のあった市長選挙は、当選した現市長の名前のみで得票数もない。市議会議員選挙は「当選人」「当選人とならなかった人」といった表記になっている。初めて目にする表現に驚く。その後市民からこれはおかしいのではないかという電話があり市の選挙管理委員会は「単純ミスで政治的意図はなかった」としながら修正をしたという。信じられないようなことが起きている。選挙管理委員会が選挙結果を当選した候補者のみの名前を掲載することなど到底考えられない。どのような忖度が働いたのかと思うのは当然だ。こんな土壌の中で、闘っている人とつながれたことは、幸運と思う。まだまだお任せの政治、男性中心の事なかれ、ご都合主義の政治はしっかりと根を張っている。これを変えられるのやはり女性の進出しかないのでは。

生活は政治!! コロナ禍の中でとても元気をもらえた2021年のスタートだ。

(秀子)

家庭菜園講座だより



事務局参加者からのメッセージ

家庭菜園講座は、2021年3月をもってまちネット寄居のかかわりは、終わりとなりました。2014年4月に講座を立ち上げてから7年間。延べ40人近くの方が参加してくださいました。地元寄居町内だけではなく、さいたま市、所沢市、川越市とかなり遠方の方の参加に驚かされました。畑は全くの初心者から相当の広い面積を農耕されている方まで千差万別。経験もばらばらの中で、畑の一から講師の鈴木さんは丁寧に指導してくれました。中でも11月の収穫祭には、参加者の畑からの収穫物も含め、皆手作りのたくさんの種類の料理が並び、舌包みを打ちました。講座の畑から抜いてきたダイコン、ニンジン、ネギなどを思い切りぶち込んだ鍋は最高においしく、笑顔がこぼれました。自分たちで少しでも野菜をすることで、市販の野菜との違いを知り、地場で有機無農薬でもここまで作れることなど学びました。何より畑仲間、同志のつながりができ、小さなコミュニティが広がりました。7年間、月1回の講座のために色々な苦心をされた講師の鈴木恵子さんに感謝です。なお、まちネット寄居での家庭菜園講座は終わりとなりましたが、講座での有志が集まって紡畑(つむばた)として継続しています。

毎月、第3日曜日が家庭菜園講座の日でした。日当たりの良い、そして東側と西側が雑木林で、民家が一軒も見えず、どこかスッポリ秘密の場所に来たような気持ちになる、きれいな青々とした畑でした。

そこで私は見守りと称して小さな友達と毎回、ワクワクする楽しい時間を過ごしました。朝から少し元気がない日も、無農薬の安心な畑道で、雑木林の入口の大きな実をつける栗の木の下で、賑やかなニワトリたちの小屋の前で、小さな発見の度にキラキラした光を放つ小さな友達といううちに、私はすっかり元気になりました。

大人の人達は、おひとりおひとり人生の中で磨いてこられたノウハウや個性を持ち寄って、いつのまにか役割分担をし、ひとりふたりでは到底終わりそうもない作業をスルスルとこなしていました。たわいのない話をしながら、土に触っている安心感と収穫の喜びは、人は昔からこうして食べるものを作って生きてきたんだねと、当たり前なのに初めて感じた幸せな気持ちでした。

7年もの長い間、毎回講座の日の為にいろいろと準備してくれた講師の鈴木恵子さん、そして参加者のみなさん、ありがとうございました。(KY)



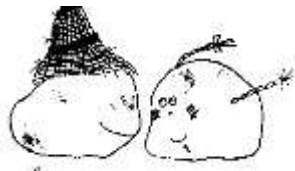
収穫祭は毎年大盛況！



子どもたちも参加



木曜野菜市



毎年季節の端境期は少しお休みの野菜市ですが、今年はお届けが滞りました。週1回とはいえ、8年もの間継続しての季節の野菜類と卵の提供は大変なこと。本当に感謝あるのみ。労苦を惜しまず野菜を寄付して下さる増谷文子さん、新鮮な卵を届けて下さる大島恵美子さんありがとうございます。生活クラブの班の人たちは、毎週野菜市を楽しみに、また当てにして消費財を取りに来ています。皆さんの笑顔と生産者のお二人に元気をいただきながら、まちネット寄居の活動は継続しています。



ネット会員募集

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることなど皆で話すことからスタートです。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ：大北（080-5933-7154）

※ショートメールでもOKです。

編集後記

異常に早い春の到来。例年より1週間から10日早い気温の上昇と春の花々の開花。二十四節気七十二候の季節感がどんどん遠ざかる。おまけに穀雨もない。これほど生活の中で異常を感じる事態となってしまったのだ。この気候危機は地球規模で広がっている。このままいくと食糧危機に繋がっていくだろう。77億人といわれる地球人を養えるだけの食糧生産はできなくなる。格差の中、飢える人たちと裕福な層の飽食の時代から地球は破滅と向かっていくのか。この10年の間に真剣になって、この変動にすべての国が取り組まないと手遅れになってしまうのでは。自分自身「暮らしスリムに心豊かに」とうっとりするようなスローガンに酔っていたかもしれない。足元を見たとき、食料、衣類、水、電気、ガソリン などなど当たり前に使っている日常の必需品をできるだけ節約し、省エネルギーで暮らすことをしてきただろうかと自問する。否、強く意識する時、すっかり腑抜けになってしまう時の繰り返しだ。ただ個人でできることと、社会のシステムが招くリスクは次元が違う。便利な社会の落とし穴は理屈ではわかっているのだ。その転換は今しかない。もうタイムリミットだろうとぼんやり思いながら今年も夏の果菜類の苗を畑に植えている。

H.O

4月の定点撮影 同日でもこれだけ気温が違う



2017年4月



2021年4月